

製品名: BUILD.一貫IV+

項目1: 計算方法 項目2: 断面計算

タイトル: 鉄筋付着許容応力度の検討(1991年版RC規準)に対応していますか？

Q.

鉄筋付着許容応力度の検討(1991年版RC規準)に対応していますか？  
また、入力はどのコードで行いますか？

A.

Ver.1.07より1991年版RC規準の鉄筋許容付着応力度の計算にも対応しています。

入力は許容応力度計算データの[DES1]の16項目で行います。  
詳細はマニュアル(ヘルプ)をご参照下さい。

なお、付着の検討は1999年版RC規準による方法と  
1991年版RC規準による方法の何れかを選択するようになっていましたので、  
検討目的に応じてどちらかの方法を選んで下さい。

『RC規準の付着等の検討における1999年版と1991年版の違い』  
(次ページ)も参考にして下さい。

製品名: BUILD.一貫Ⅳ+

項目1: 計算方法 項目2: 断面計算

## タイトル: RC規準の付着等の検討における1999年版と1991年版の違い

Q.

Ver1.07から1991年版RC規準による鉄筋の付着計算機能が追加されましたが、付着等の検討における1991年版と1999年版の違いを教えてください。

A.

以下のような違いがあります。

## 【1999年版RC規準】

- ・許容応力度設計による安全性の検証を目的としている。  
つまり想定する曲げ耐力やせん断耐力の確保(安全性の確保)にある。
- ・主筋の定着が確実に行なわれていることを検定している(必要付着長さの算出)。  
主筋の定着が確実にあれば、局部的に付着が劣化していても、曲げ耐力やせん断耐力が低下するとは限らない為、主筋の定着に重点をおいている。
- ・それゆえ1991年版の曲げ付着による検定は廃止された。
- ・そして付着割裂破壊に関する既往の研究成果を反映させた許容付着応力度の検定を新たに設定した。

## 【1991年版RC規準】

- ・国土交通省告示第817号(平成19年6月14日)、「構造計算概要書、応力図、基礎反力図及び断面検定比図の様式を定める件」別表4.鉄筋コンクリート造における付着に関する記号によると、付着応力度( $\tau_a$ )、許容付着応力度( $f_a$ )による検定結果の出力を求めており、「2007年版 建築物の構造関係技術基準解説書」でこれは1991年版RC規準によることと明示されました。
- ・限界耐力計算の損傷限界の検証を目的としている。ここでいう損傷限界とは、安全性、使用性、耐久性の顕著な低下がなく、修復が不要である限界の状態を意味する。
- ・部材端部での主筋定着の検定と曲げ付着の検定のどちらかを  
行なうことを規定している。
- ・限界耐力計算において、付着割裂破壊の検証は損傷限界での検証でなく、安全限界の検証において行なわれる。